



『隕鉄 (いんてつ) の小刀』

2001年4月21日、インターネットの『ものアイランド』の住人、ゴジラさんの企画で『ナイフづくり鍛冶道場』が新潟県三条市で開催されました。参加者は『もの作り』の好きな面々、東京・神奈川そして姫路(私)の6名、師匠は剃刀鍛冶で高名な岩崎重義さん。三條で金物問屋を営む外山さん(ハンドルネーム ゴジラさん)の会社で外山さんの指導による『刀剣の見方』講習会のあと、岩崎師匠の仕事場へ移動しました。

まず、『仕事は腹ごしらえのすんだ後』岩崎師匠の弁、庭にしつらえられたごちそうが盛りだくさんビールや酒の載ったテーブルを囲んで初対面の挨拶。私の自己紹介の後『あなたが、むらの鍛冶屋さんですか? 実は隕鉄のことを友人にインターネットで調べてもらいました。そのとき『むらの鍛冶屋』のホームページに出会い、隕鉄の事が詳しく出ていたので興味を持って読みました。また、鍛冶屋や鉄のことを丁寧に説明されているのに感心しました。』この後、酒を飲みながらこれまでに調べた隕鉄のことを話しました。

1. 隕鉄は組成や成分のバラツキが大きく刃物を作るには比較的均質なものが必要。
2. 隕鉄は鉄とニッケルの合金の場合が多く、柔らかくて刃物には不向きである。
3. 刃物にする場合は刃金(はがね)を鍛接する必要がある。
4. これまで調べた中では、『ギボン隕鉄』が適当ではないか?

などなど、思いついた事柄をしゃべりました。

初対面で、私は鍛冶道場の生徒。しかし師匠は古くからの友人のように私に接してくださいました。2日間の鍛冶道場でしたが、手の遅い私は2日目の午後になってもナイフが完成しません。

『あとで仕上げて送りますよ。』師匠の奥様の言葉に甘えて、師匠から《私の宝物》を数種類頂き、新潟空港へ急ぎました。



隕鉄(宇宙から飛来)で小刀4本 三条の技術で こんな見出しで新聞記事が出ました。

宇宙から飛来し、地球上に落ちた隕鉄。このほど、三条の名工の技術で、隕鉄を地金に使った刃物の製造に成功、30日午後3時から新潟市山田、新潟ふるさと村で開かれている「01さんじょう発道具文化フェア」の会場で製作発表会を開き、地球上では見られない独特の模様の付いた刃物を披露した。

刃物を製造した隕鉄は1836年、アフリカのナミビアで発見されたギボン隕鉄。ギボン隕鉄は宝石・貴金属販売の三条市元町、パリエ代表の堀川芳幸さんが6年ほど前に入手したもので、三条市荒町1、池田鑿(のみ)製作所代表の池田慶郎さんが栄町高安寺、三条製作所の岩崎重義さんの監修で刃物を打った。打った刃物は長さ15センチほどの切り出し小刀4本。ギボン隕鉄にはカーボンが含まれず、そのままでは刃物にならないため、隕鉄を地金に、鋼を張り付けることで刃物を作ることに成功した。(三条新聞2001年8月31日 号より(一部省略))

◆岩崎重義氏のプロフィール◆

1933年 神奈川県横須賀市生まれ。新潟県三条市の刃物鍛冶で刀匠の認定あり。父、岩崎航介氏と共に日本刀の材料である玉鋼(たまはがね)の研究を極め、自ら越後鍛冶を名乗り、科学的研究と実践をもって優秀な刃物造りに半生を捧げる。

日本を代表する鍛冶職人である。特に、鍛冶の技術を一般人や学者にわかるように解説することを目指しておられ、鍛冶技術の通訳者を自認されている。

ホームページと電子メールをご利用ください。

URL <http://www2.memenet.or.jp/kinugawa/>
<http://www.kanamono.co.jp/bike/ryou@memenet.or.jp>



むらの鍛冶屋®



「鉄のふしぎ博物館」 7月開館予定